

「津久井やまゆり園」を出てから

平野和己

平野和己 プロフィール

- 1990年4月3日生まれ 34歳
- 1992年7月、熱性痙攣から呼吸が停止。救急搬送され、一旦家に戻るが、翌日、様子がおかしく北里大学病院に入院。痙攣を頻発し脳炎等の疑いがあるが、50日間入院するも、原因不明のまま退院。しゃべれない、歩けない。全ての記憶も失った状態であったが、その後歩行、排泄等は回復したが、知的障害が残る。
- 1997年4月、小学校入学(普通級)
- 1997年9月～1998年10月 梅ヶ丘病院(精神科)入院
- 1998年10月～1999年4月 小学校(身障級)
- 1999年4月～2014年6月 弘済学園(秦野市)入園
- 2014年6月～ 津久井やまゆり園入園
- 2016年7月 事件に遭遇(すばるホーム/3名死亡・1名重傷)
- 2016年8月 三浦しらとり園へ移動
- 2016年10月 パニックを起こし家へ引き取るが、家でも暴れ無理矢理やまゆり園に戻してもらう。
- 2017年4月 津久井やまゆり園芹が谷園舎へ引っ越し。
- 2018年6月 津久井やまゆり園を退所 同愛会まちなと事業所のGHへ入居
- 2018年10月 同愛会てらん広場へ移動 主に同会事業所リプラスで作業



2018年5月31日退園 同愛会GHへ



神奈川新聞

神奈川新聞 成田さん撮影

キャップの仕分け、手帳の解体などの仕事



10月にてらん広場へ移る



リプラス



2019/04/26 リプラスでの仕事(発泡スチロールのリサイクル)



2019/10/14 リプラスでの様子

2024/3/26 リプラス

かなり手慣れてきている



てらん広場 横浜市保土ヶ谷区



てらん広場で

友達の誕生日に

行動援護による外出

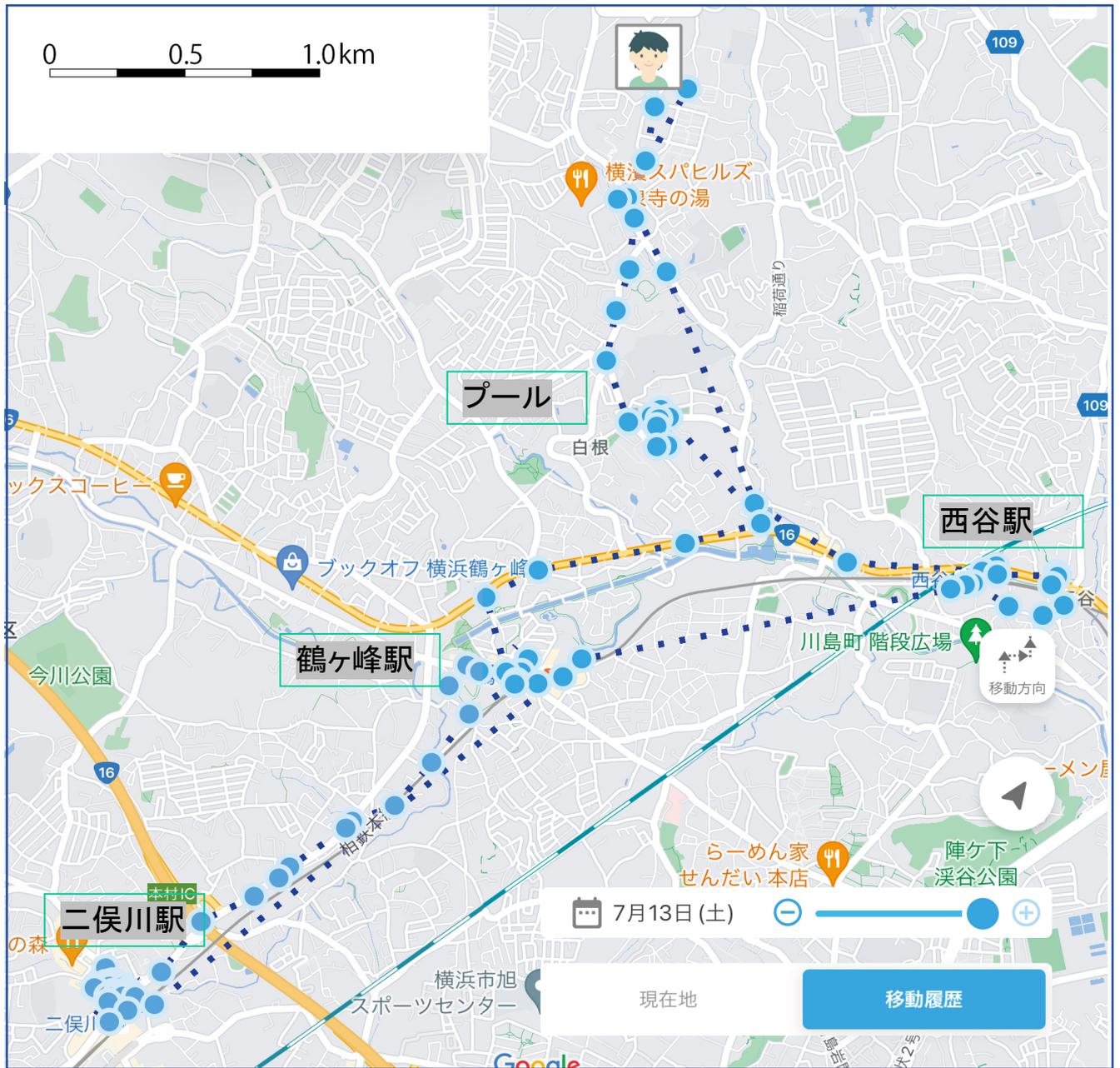
2024.07.13

ヘルパーとの外出(月に4~5回)。

この日は、近所のプールへ行ってから、昼食をとり、そのあとは未定だった。

プールは大好きでいつもは長く入っているのだが、この日は父親が見ているのが気になったのか、すぐに上がってしまった。それでも、中では「気持ちいい」とご機嫌だったようだ。

そのあとはバスで近くの駅まで行き散策。結局隣の駅まで歩いて昼食。それからまた散歩。歩くのは大好きだ。色々な店を見て歩くのが面白いらしい。



GPS(迷子の予防にリュックに装着)による移動経路



7/13行動援護 前半

てらん広場でのトレーニングの積み重ねによって、問題行動はかなり緩和されてきたようだ。たとえば、ものを投げる、手を出す、蹴る、あるいはじっとしてられないことなど、随分と減ってきている。

さらに、行動援護でしょっちゅう外出するようになって、今までできなかったことができるようになってきたということが多い。

リュックをずっとしょっていられたり、自分から買い物ができたり(好きなものを選べる)、長い時間待ってられる、傘をさしてられる。さまざまなことができるようになった。

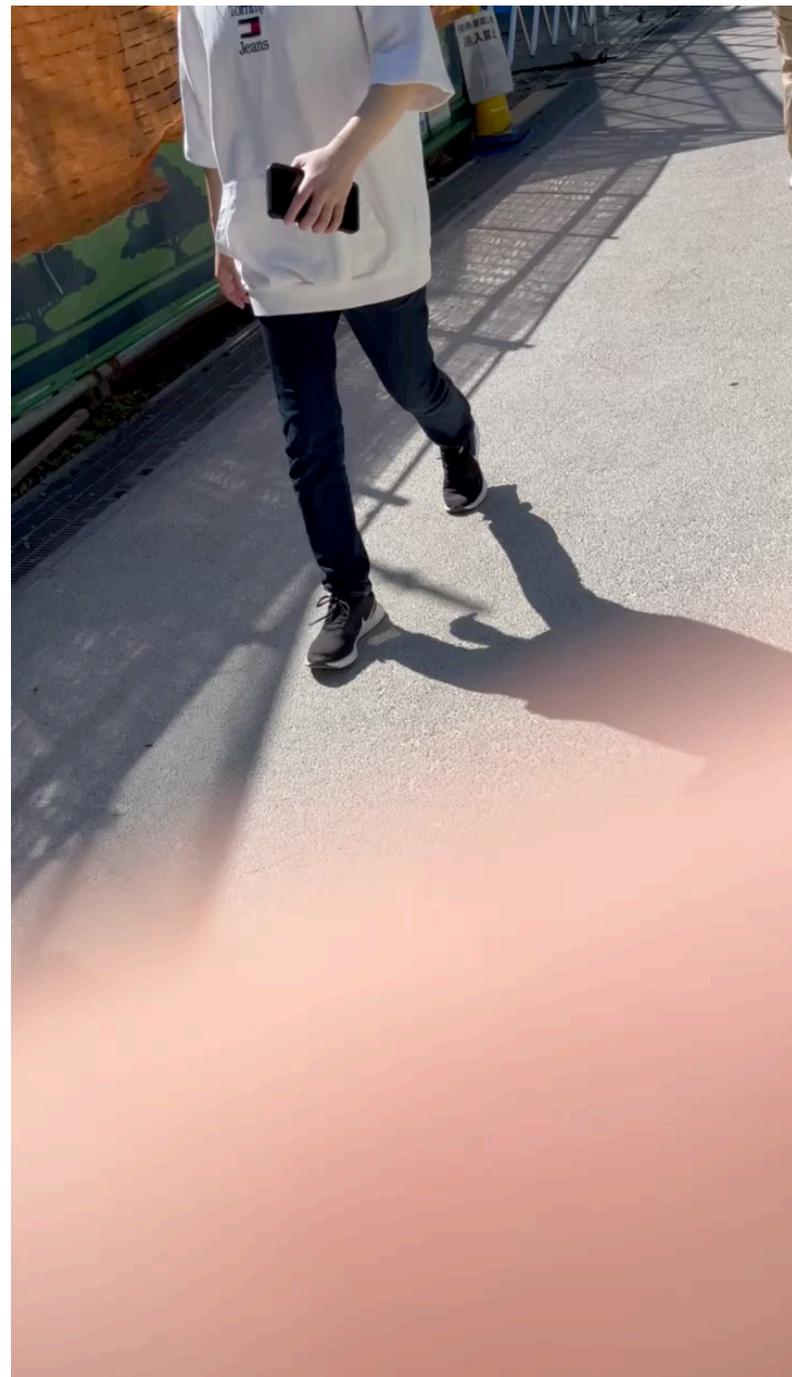
総じて社会性が身に付いたと言えるだろう。

ほんとうに見ていて安心できるようになってきた。親といっしょだとその距離が近すぎてなかなかうまく行かないことが、他の人だと結構うまくいくことが多い。

施設でも地域交流といって、近隣の人が来たり、みんなで近所へ出かけていったりすることがある。それはそれでいいのだろうが、そうではなくて自分から進んで外へ出て行く、社会のなかへ入って行くということが大事なことだと思う。それによって本人の世界が大きく広がるし、可能性も膨らんでいく。また障がいのある者が外へ出て行くということは、長い目で見れば、社会にとっても有用なことであるに違いない。

残念なことに施設にいると行動援護のような制度は使えない。また事業所が少なかったり、ヘルパーの数が確保出来ない等の理由により、なかなか十分に機能していないのが現状である。

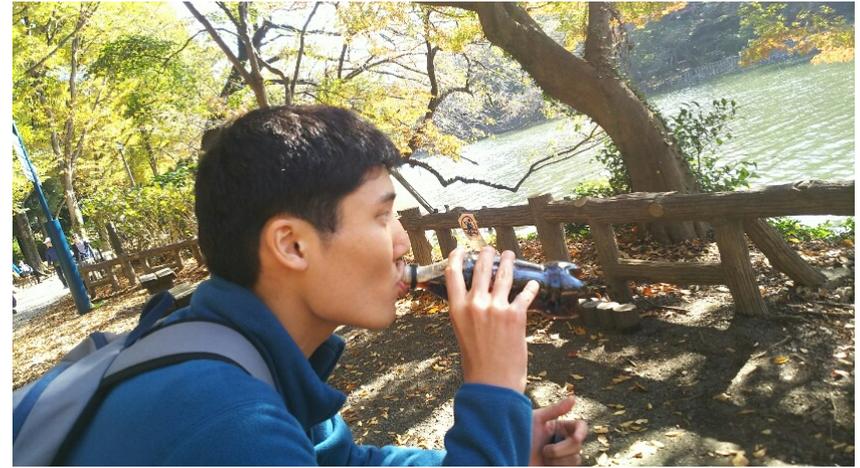
20240503
父親との外出



今までの行動援護を使っの外出



サーカス



井の頭公園



すきやき



水族館



ディズニーオンアイス



ふくろうカフェ



スカイバス



パフェ



町田付近

家で愛犬と トイレ、風呂、就寝、全て大好きな犬と一緒に・・・





やまゆり園 芹が谷園舎で(2018年ころ)



こどもの国で(2021年ころ)

以前は常に何か(携帯電話など)を手放せなかったが、最近はずいぶん平気になってきた。

障害のある者が社会生活(地域移行?)を送る上で障壁となること

- ・ 暴力、破壊、他害
- ・ 発声、大声、奇声
- ・ 自傷
- ・ 強度のこだわり

これらを緩和させるプログラムを持つところが少ない。

これらが解決できなければ、一般社会に出ることが難しい。

逆に、これらが克服できさえすれば、どんな形でも生活できる。

行動援護(移動支援)について

- ・ ヘルパーと一緒にはあるが、一人で好きなところへ出かけられる。
(好きな時に、最大8時間)
- ・ 能動的に行動できる。
- ・ 社会性が身につく。
- ・ 脳が活性化される。体力がつく。

問題点

自治体によって対応が異なる。支給量や支給基準が異なる。

事業所が少ない(経営的に難しい)

人材が少ない。

2024/7/25作成

8月 ガイド計画書

相模原市 / 行動援護

ケアこげら調布事務所

TEL:042-426-9911

調布エリア携帯:080-5466-3900

ひらの かずき様

平野 和己様

日付	開始時刻	終了時刻	ヘルパー	ヘルパー名読み方	内容	備考
4日(日)	10:00	17:00			てらん広場～ディズニーオンアイス～てらん広場	
10日(土)	10:00	17:00			てらん広場～相談～てらん広場	
16日(金)	10:00	17:00			てらん広場～相談～てらん広場	
25日(日)	10:00	17:00			てらん広場～相談～てらん広場	

【アセスメント】 [2022年4月変更](#) 事務所に確認をお願いします。

【支援の注意事項】 [2023年4月作成](#) 事務所に確認をお願いします。

2024年8月のガイド計画